

2019年度 道徳科実践・研究計画

部 員 ○小室真紀 保坂智子 佐々木恵 福田佳子 鎌田雅子 佐々木絵理子

研究テーマ

道徳的価値に照らして、より深く、より豊かに考え、
自己の生き方を見つめ直す子どもを育む学び

1 研究テーマについて

子どもが自己の価値観を生み出し確立していく姿が、「特別の教科 道徳」（以下道徳科）での「自律した学習者」の姿である。一人一人が自分事として納得する道徳的価値観を見いだそうとする一つ一つの積み重ねが、生きていく上で自己を見つめ直す心のみちしるべとなっていくだろう。

「より深く、より豊かに考える」深い学びは、道徳的価値を自分事として考え「主体的」に学ぶ子どもの姿と仲間と自分の思考を摺り合わせて「対話的」に学ぶ姿の両面が支えている。どちらが欠けても成り立たない。両者を融合させる根底には、「省察」する自分が流れている。道徳科での「省察」の場はすべてにある。教材を通して見えた道徳的価値を自分事として捉えるきっかけが子ども一人一人異なることの当たり前を、改めて意識の中に入れた上で、授業を組織化するという点が前年度の課題となった。主発問で子どもの道徳的思考が一気に変わるものではないことを肝に銘じた授業づくりを心がけたい。

教材から刺激を受け、道徳的価値に照らしたとき、そこに問題意識を伴った「主体的な学び」が自分自身を見つめる始まりとなる。そして、仲間の考えに出会い、今までの自分の考えと重ね合わせていく。それらが総合的に自分の中で反芻していくとき、今までの自分の心のものさしでは測りきれない場面に遭遇する。葛藤が生まれる場面であり、感動が呼び起こされる場面であり、批判が生まれる場面である。自分たちの考えを掘り下げ、自分の考えを揺さぶっていく場となっていくだろう。子どもの思考は、いくつかの発問と核となる発問との関係性の中で広がったり深まったりする。だからこそ、友達と議論していく中で、多面的・多角的な思考の連続が自分の生き方を見つめ直していく感覚を生み「心の力」をしなやかにしていくのだと考える。「心の力」は、自分が納得する価値観をどう耕し、どう形づけていくのかが重要になってくる。

道徳科の目標の中で、「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める」学習を通して道徳性を養うことが示されている。立場や見方を変え、道徳的価値に照らし、より深く分析的に思考していく「多面的思考」と自己の考え方や生き方の選択肢について仲間と議論していく選択的な思考である「多角的思考」を一体的にした授業の積み重ねが、「心の力」をより豊かにしていくのだと考える。

道徳科の時間は様々な方向の関わりから感性が刺激を受ける。その刺激の核となっていくのが仲間との議論の場であることは、明確である。そこを経て、最終的に自分で決断するのが道徳の時間であるからこそ、自分を見つめ、自分の生き方を見つめていく姿に納得した道徳的価値観が根付いていく道徳科の時間を積み重ねていきたい。

道徳科における「学びをつなぎ、資質・能力を高めていく子どもの姿」を次のように捉える。

- ・教材の登場人物への共感的追求から広げ、その行為やその背景にある思いについて語り合う姿
- ・仲間との学びの中で多様な考え、多角的な見方に触れ、気づきを生み出しながら、自己の生き方を見つめ直す姿
- ・「対話」を通して道徳的価値を温め、自分の生き方の中で実現していこうという思いをもつ姿

2 研究の重点

(1) 子ども自身が問題意識をもつことができるための導入の工夫

子どもが進んで「考えたい」と思うような授業を展開したい。そのためには、教材を通して出会った道徳的価値と自己との関わりを意識した導入の工夫でありたい。子どもの直感的な気づき、疑問、悩みなどを吸い上げながら、自分事として追求したいというエネルギーを共有する場を大事にしていくことは、学びの高まりとなっていくだろう。問題意識をもち、自分との関わりで捉えていく子どもの姿を思い描きながら、道徳的価値に照らして自分を見つめ「省察」し始めることができるような導入の工夫をしていきたい。

(2) 多面的・多角的に自分の生き方を見つめることができる授業づくりの手立て

仲間と自分の考えを摺り合わせながら、自身が納得のいく道徳的価値観を生み出していくことに学びの心地よさを感じる子どもの姿を創造していきたい。

仲間との思考を摺り合わせていく場は、子どもたちが自らの考えを多面的・多角的に吟味し、道徳的「見方・考え方」を実感していく場となっていく。共同的な話し合いや議論の場は、学びの広がりや深まりを支えていくだろう。自分の生き方を見つめるきっかけとなる議論を促す学習をしかけていきたい。

授業の終末では、本時のねらいの根底にある道徳的価値に対する思いや考えをまとめる時間を設定する。1時間という短い時間では子どもの変容をみとめることはなかなか難しい。学習過程が見えるような記録をファイルに集積して、子どもたち自身が道徳的諸価値に対する「見方・考え方」の変容を実感する場を大事にしていきたい。

3 研究・研修計画

時 期	主な研究・研修行事	研究・研修内容
1 学期	・ 道徳部会 ・ 附属中学校公開研究協議会(5/31) ・ 附属小学校公開研究協議会(6/7) 提案授業 小室：6 B	・ 実践・研修の計画，部内組織の確立 ・ 小中連携 共同実践研究
2 学期	・ 道徳部会 ・ 研究パンフレット執筆 ・ P T A 授業参観での授業提示	・ 小中連携 共同実践研究 ・ 実践・研究のまとめ
3 学期	・ 部内研修会 ・ 道徳部会	・ 授業を通して，研究の方向性の確認 ・ 重点事項の検証 ・ 年間指導計画の見直し ・ 次年度の実践・研究計画の立案(案)